

# 調査結果の要約

# 調査結果の要約

## 《I 一般的意識》

### 1. 興味のあるもの

興味があるものは、「音楽や映画」「自分の進路」「情報メディア」「ファッション」である。

1、2年生では「音楽や映画」への興味が最も高いが、3年生になると「自分の進路」が関心事項のトップとなっている。

### 2. 生活で悩んでいること

生活の中での悩みの中心は「自分の進路」や「自分の成績」であり、最も悩んでいることとして、成績と進路を挙げた人が全体の6割以上を占め、他の項目を大きく上回る。

### 3. 地元への定住意識

「一度は県外へ出ても、富山に戻って住みたい」人が4割を超え、「ずっと住みたい」人と合わせると、6割弱が将来富山に住みたいと希望している。

一方、富山県に「住みたくない」という人は全体の約14%であり、男女別では女子が、進路希望別では進学希望者の方が「住みたくない」人の割合が高い。

### 4. 定住しない理由

将来富山に「住みたくない」と答えた人の、その理由は「魅力あるイベント・コンサートや遊ぶ場などが少ないから」が6割を超え、「都会に興味があるから」「買い物などが不便だから」「親と別れて住みたいから」が続き、都会的な利便性や魅力不足を挙げている。

### 5-1. 進学・就職の意向

卒業後の進路について、「進学したい」と考える生徒は7割以上と極めて高く、なかでも、普通科・探究科学科・国際科においては8割を超えている。

また、男子より女子の方が進学希望の割合が高い。

一方、専門学科の生徒における進学希望は4割台にとどまっている。

### 5-2. 就職先

高校卒業時の就職希望者では、約7割が県内での就職を希望しており、県外希望者を大きく上回っている。しかし、進学希望者における、大学等の卒業時の就職先としては、県内は3割弱にとどまっており、2割強が県外希望、「どちらでもよい」とした人も3割を超えている。

県内への進学希望者のうちの半数以上が県内での就職を望んでおり、県外進学希望者の1/3以上が県外での就職を考えている。県外への進学希望者のうちの約2割にはUターン志向が認められる。

### 5-3. 進学先

進学先としては、進学希望者の半数以上が県外を希望し、特に3年生にその傾向が強い。

### 6. 生活観

生活する上で大切にしたいこととして、全体の6割以上が「家族や友人など身近な人とのふれあいを大事にする」と回答しており、人間関係を重視している傾向がうかがえる。男女別にみると、女子の方にその傾向が強い。

### 7. 結婚に関するイメージ

結婚に対しては、「子どもを持ち、家庭を築く喜びがある」が約7割、「好きな人とずっと一緒に暮らせる」が4割以上と、比較的肯定的なイメージが持たれている。

一方、女子からは「家事や育児が大変」という意見も多く挙げられており、結婚生活に伴って生じる様々な負担や制約といった負のイメージが、男子を大幅に上回っている。

### 8. 子どもについての考え

「家族の絆や幸福感を持てる」が5割以上、「子どもはかわいいと思う」が4割以上と、概ね肯定的である。

### 9-1. 職業観

将来仕事に対して求めるものとしては、全体の7割以上が「やりがいや達成感」を挙げており、仕事を自己実現の手段としてとらえる傾向が強く感じられる。

一方、高校卒業時の就職希望者では「生活のために必要な収入を得ること」を選択する人が6割以上と、比較的高い。

### 9-2. 就職希望業種

就職したい具体的な業種については、現時点では「わからない」という回答が最も多かったものの、「医療・健康関連サービス業」「製造業」「公務員」が上位に挙げられている。

## 《Ⅱ 富山県の未来に対する意識》

### 1. 富山県の魅力

「空気や水がきれい」「山、川、海等の自然環境に恵まれている」「米や新鮮な魚など、食べ物がおいしい」がそれぞれ8割以上選択されており、富山県の魅力としては“自然”“食べ物”を挙げる人が圧倒的に多い。

続いて、「災害や犯罪が少なく安全である」が6割弱となっている。

## 2. 富山県に不足しているもの

不足しているものとしては、「魅力あるイベント、コンサート」が全体の5割以上、「まちなぎわい」「流行の商品が買える店」が4割以上の人から選ばれ、自らの興味や行動欲求を充足させる機会や、都会的な魅力の不足を強く感じている。

定住意識別にみると、「住みたくない」と答えた人の4割以上が「通学するための公共交通機関」の不足を挙げている。

## 3. 現在の東京・富山のイメージ

東京のイメージとしては、「便利」「情報が多い」「活気がある」「危険」「先進的」などが多く挙げられている。富山は「安全」「暮らしやすい」「美しい」「地味」「あたたかい」の順となっている。東京と富山では、別の観点からの魅力があると捉えられている。

## 4. 未来の社会に対する期待

全体の6割以上が「がんやエイズの克服」、5割強が「福祉の充実」、4割弱が「エネルギー問題や環境問題の克服」を挙げている。

男女別にみると、女子には「福祉の充実」に対する期待感が大きい。

## 5. 未来の住んでみたい富山

未来の富山に対しては、「空気がきれいで、豊かな自然環境が守られている県」「災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる県」「快適な生活環境の中で暮らせる県」など、これまで富山県の魅力としてきた部分をそのまま維持しつつ、なおかつ「道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県」「買い物で便利で、市街地に活気のある県」でもあることを期待されている。

## 6. 富山県をよくするための方法

全体としては、活気のある商店街づくりや、コンサート・プロスポーツなどの“楽しさ”を満足させてくれる機会の増加、福祉の充実といった安心して暮らせる環境、交通システムの整備、伝統文化を大切にすることなどが求められている。

## 7. 未来の富山県に対する期待（自由意見）

未来の富山県に対しては、従来豊かな自然環境に代表される“住みよい”富山県を守りつつも、買い物や公共交通機関の便利さといった“都会的”な発展が行われることを期待する意見が多い。

